



CONTENTS

- 平成 24 年度スポーツ振興支援報告書
- 平成 24 年度地域振興事業報告書
- 奨学生の声紹介

- 平成 25 年度スポーツ振興支援事業
並びに地域振興事業募集中

シリーズ 第16回

この本をあなたにも薦めたい
『いしぶみ』 広島テレビ放送 編

“奨学会だより”でつなぐ 夢の架け橋

伊藤青少年育成奨学会と、奨学生のみなさん、県下の高等学校の運動部並びに文化系部活動のみなさん、そしてこれから奨学金を受けたいと希望しているみなさんをつなぐ架け橋として「奨学会だより」を発行しております。わたしたち奨学会は、郷土・岐阜の未来を切り拓く青少年のみなさんが、その夢を実現することができるようにと、平成12年から資金援助を行っています。

しかし、みなさんが目標にしている“夢”は容易に手に入るものではありません。実現までの道のりは長く、厳しく、途中幾度となく諦めを感じることもしょくないと思います。

そんなときに、どこか遠くで頑張っているほかの奨学生の様子を目にすることができれば、きっとみなさんの励みになるのではないのでしょうか。

また、わたしたちの活動をまだ知らない方々もたくさんいらっしゃるはず。経済的理由から将来に不安を持ち、夢を諦めようとしている仲間達もいるかもしれません。

そんな方々に、みなさんの頑張っている声を聞いていただきたい——「奨学会だより」の発行にはそんな願いも託されています。

スポーツ振興支援



平成 24 年度スポーツ振興支援校からの報告書の一部です。

県立本巣松陽高等学校 ソフトボール部

念願のピッチングマシンを導入！「一球総力」で目指すは“本巣復活！”



この度は伊藤青少年育成奨学会スポーツ振興支援事業の支給対象校としていただき、心から感謝しております。おかげさまで夢にまで見た最新のピッチングマシンを購入させていただくことができました。

マシンが到着したときはロングティーバッティングの最中だったのですが、皆大喜びで一斉に手をたたいてマシンに群がりました。業者の方に操作方法を教わり、早速試打しました。ストレートだけでなく、カーブ、スライダーなど、多彩な変化球が投げ分けられるマシンであり、ドロップのあまりの鋭い落差には部員一同目を丸くしました。炎天下での活動でもあり、白いのは目と歯だけの顔をくしゃくしゃにして喜ぶ顔を見て胸が熱くなりました。ほんとうに嬉しいです。これで全国レベルのピッチャーに打ち負けないための打撃練習がたっぷりとできます。

貴会から支援していただけることを部員に報告したその翌週の岐阜県ソフトボール選手権大会で、準優勝を果たすことができました。その後も通りすがりの方から「よくがんばってるね！」「強くなれよ！」といった励ましのお言葉をいただいたり、近所にお住まいの方からスポーツドリンクを頂戴するなど、とても

嬉しいことが続いております。がんばっている人には必ず応援して下さる方が現れ、その存在がまた人を強くするのだということを貴会の皆さまが教えてくださいました。この「幸せの種」は確実に部員の心で育ち、新しい世代に花を咲かせてくれるに違いありません。

私どもは県立高校ゆえ、部活動に潤沢なお金は望めません。人間教育の一環というスタンスから、グラウンドは心を込めて整備し、道具類は日頃から大切に扱うとともに、傷んだ場合は部員で補修、ボールも摩耗し、形が崩れたものはティー用に、「土に帰るまで」使いきっております。3年間でネット補修がプロ級の腕前になる者もおります。いただいたこのマシンもずっとずっと長く使わせていただきます。業者の方も、このマシンを納品するのは初めてということで感激してみえました。

ここ数年、岐阜県の高校ソフトボールは、「私学二強」が続いています。両チームともたいへん魅力のある素晴らしいチームですが、私たちはその二強を倒す県立高校になりたいと考えています。貴会の支援でいただいたこのピッチングマシンを強い味方に、少ない部員ですが「本巣復活」「一球総力」を合い言葉に今後も真摯に鍛錬していきたいと思っております。

最後になりましたが、伊藤理事長様をはじめ、貴会の皆様のみなさんへのご健勝とご発展を心よりお祈りいたします。この度はほんとうにありがとうございました。深く深く感謝いたします。ご恩は決して忘れません。

顧問 小池雅子

県立多治見高等学校 野球部

練習環境の整備が実現。戦力を磨き、地域の期待に応えたい。



この度は、伊藤青少年育成奨学会スポーツ振興支援事業の対象に本校野球部を指定いただきまして、誠にありがとうございました。

本校のグラウンドは非常に狭く、野球部、サッカー部、弓道部、陸上競技部が共同で使うには様々な問題点があります。野球部としては特に、守備練習中に他部の練習スペースにボールが飛び込んでいくことを防ぐことが不可欠です。今回の支援金で野球部とサッカー部の練習スペースを仕切るための防球フェンスを買い揃えることができ、各部が練習に集中できる環境を整えることができました。キャスター付きで移動させるにも便利になり、素早く準備や片づけができると選手も喜んでます。新品の防球フェンスを駆けて足で移動させる選手の姿を見て、顧問の私どもも念願がかないうれしく思っています。また、グラウンドの北側から西側にかけて防砂ネット（防風ネット）を施させていただきました。長きにわたり、レーキでグラウンド整備をするたびに乾いた黒土が舞いあがり風によって近隣の住宅の方へ流れていき、住民の方には不快な思いをさせていたことと思います。防砂ネットを施すことによって、地域住民の方にも本校野球部の活動にご理解をいただけることを願っています。

（この文章は上記の文章と重複するため省略）

野球部の選手たちは防砂ネットの施工が完了した後、ネット周辺の雑草を取り、木の枝を拾い、環境整備を始めました。設備を整えていただいた感謝の気持ちを選手たちが持っていることをうれしく思い、ぜひ報告させていただきたいと思いました。未永く設備を維持し、選手たちが感謝の気持ちを忘れないように今後も指導していきます。

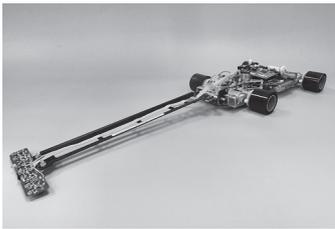
平成22年度の第9回全国高校野球選手権岐阜大会において、本校野球部はベスト4という本校史上初の成績をおさめることができました。大会中には地域の方々からもたくさんの激励の言葉と応援をいただき、選手ともどもたいへん感激しました。私は、地域の方に応援していただける野球部にしたいという思いが、よりいっそう強くなりました。

以前より、前述したように野球部の活動が近隣住民の方に迷惑をかけてはいないかと心を痛めていましたが、今回の支援金をいただけたことで地域に愛される野球部になっていくための環境をつくることができました。また、環境を整えるだけでなく、今後も継続して地域の清掃活動や気持ちのよいあいさつを通して、野球部員と地域の方々に関わることができるようにしていきたいと考えています。そして何より、大会で好成績をおさめることで地域の期待と応援に応えていきたいと思っております。

伊藤青少年育成奨学会の温かいご支援に対しまして、野球部一同、心よりお礼を申し上げます。今後とも、多治見高校野球部をよろしく願い致します。

顧問 古田英治

県立可児工業高等学校 電気システム部 機器導入により、効率と精度がUP。夢は大きく地区5連覇、全国大会優勝へ！！



今回は岐阜県立可児工業高等学校電気システム部にご支援いただきありがとうございました。希望の工作機械などを購入することができ、生徒ともども喜んでおります。

本校電気システム部ではジャパンマイコンカーラーリーという大会の競技用ロボットを製作しております。

今年度も生徒1人1台マシンを製作し大会に参加しました。結果は、平成24年10月28日に行われたジャパンマイコンカーラーリー2013東海地区大会にてAdvanced Class、Basic Classともに優勝し、両部門とも東海大会4連覇を果たすことができ、優勝者を含めAdvanced Classでは3名、Basic Classでは1名が全国大会出場権を獲得することができました。平成25年1月13日に行われた全国大会では、出場選手全員が予選を通過することができました。最終的に決勝トーナメントを終えAdvanced Classで4位入賞、ベスト16及びベスト32、Basic Classではベスト8という結果を残すことができました。優勝には至りませんで

したが、昨年度以上の結果を残すことができました。

ジャパンマイコンカーラーリーは競技が始まって18年という事もあり、年々レベルが上がってきました。中でもロボット製作過程の機械加工部分に注目してみると、技術、精度の高さが求められるようになってきました。本校の生徒は手作業で部品製作しており、時間、体力ともに多く消費しています。しかし、miniCNCを導入後、今まで手作業で行っていた作業の一部を機械加工できるようになり、製作時間が短縮することができ、精度が高まるなど効果を発揮しています。加工中にも他の作業を同時進行で行えるため効率よく活動が行えるようになりました。

生徒自身がマシンを設計、製作していくのですが、製作と改良を繰り返していく中で、新しい加工機の機能を有効的につかった形状の部品も出てくるようになりました。生徒のアイデアがより膨らむようになったと感じております。また、先輩が新しい工作機械の使い方を説明書を見ながら学び、後輩に使い方を教えるなど生徒同士で教えあう姿もみられました。部員みんなで工作機械を囲んでいる姿をみて、指導者としては導入してよかったと感じております。

今後とも目標は高くもち、東海地区大会5連覇、全国大会優勝を目指し日々活動していきたいと思っております。

実習助手 三輪秀幸

県立各務原高等学校 書道部 作品を一貫して仕上げることで書道の真髄へ。さらなる向上を目指します。



拝啓 貴会ますます御盛栄のこととお喜び申し上げます。

このたびは、本校書道部に対し活動支援金を賜り厚くお礼申し上げます。

本校は、校訓「開拓者精神」のもと、学業と部活動の両立を目指し、8割を超える生徒が部活動に所属して日々活動に励んでいます。書道部

25名の部員たちも、文化祭では共同作品作成を通して仲間との絆を深め、一方、市や県の美術展出品・上位入賞を目指して個々の技量を磨いています。

しかし、昨年度までは、作品を完成させる「裏打ち」作業に必須の大型プレス機がなく、顧問が家庭用アイロンで一枚一枚の裏打ちを仕上げておりました。作品を額に入れるまでの過程を知らないままの生徒もあり、自分の手で作品を仕上げるという実感がなく、書道の真髄を理解しないまま

の出品であったとも言えます。

このたびのご支援により大型の裏打ち機を購入することができ、多くの生徒が、機械の温度設定から自分の作品に霧を吹き、大きなレバーを動かしてプレスするという作業を初めて体験しました。長い半紙の作品もたった2度のプレスで短時間に美しく裏打ちすることができ、部員はもちろん、顧問も大変感動いたしました。

今秋開催されました岐阜県高等学校総合文化祭におきまして、二年生の部長の作品が優秀賞を受賞することができましたのも、ひとえにこのプレス機のおかげだと、部員一同感謝の念に堪えません。今後ともこのご支援に対する感謝の気持ちを忘れず、さらなる成績向上に向け、部員一同励んでいく所存です。

最後になりましたが、あらためて理事長の伊藤喜美様、伊藤青少年育成奨学会の皆様にお礼を申し上げます。今後とも、各務原高校書道部をよろしく願い致します。

顧問 廣瀬志穂

県立郡上北高等学校 吹奏楽部 日頃の取り組みへの激励、支援に感謝。美しい音を奏でる喜びを実感しています。



このたびは、郡上北高等学校吹奏楽部のために多額の支援をいただき本当にありがとうございました。

本校の吹奏楽部員は現在30名ですが、顧問になった9年前はコンクールに出場することもままならない部員数でした。また楽器も全くそろっておらず、壊れた楽器をなん

とか修理して出場したり、数個の楽器の壊れていない部品を組み合わせで使ったりするなど、本当に苦しい部活動の運営でした。

地道に活動をしていくうちに、小学校からの依頼演奏や福祉施設や地元のイベントで演奏をさせていただく機会が増えました。地元のケーブルテレビや新聞でも活動が紹介され、吹奏楽部に入部する生徒が少しずつ増えるようになりましたが、やはり楽器が足りないという問題が必ずつきまといました。しかし、本校に通う生徒の多くが経済的に厳しい家庭で、大型楽器を購入するように勤めるのも心苦しく、個人の楽器を貸し出し、自腹で消耗品を購入していた時期もありました。長年活動してくると、生徒自身が朝練習や居残り練習に意欲的に取り組んだり、先輩から後輩へ指導するといった上下関係が確立していったりと活発になり、近年ではコンクールでは岐阜県教育委員会賞を受賞するなど、岐阜県大会でも上位に入賞できるようになりました。学校から強化費をいただいたり、同窓会長から寄付金をいただいたりできるようになりました。しかし、強化費や寄付金ではクラリネットやフルートなどの小型の楽器を購入すること

はできても、大型楽器を購入することはできませんでした。

今回、「文化部支援金」で、特に破損がひどいホルンとユーフォニウムの購入をさせていただきました。本校にあるホルンは購入されたのが昭和40年代ということで、修繕に出しても部品が無く大変吹き辛い調整しかできていませんでした。ホルンを吹いた生徒の第一声が「ホルンってこんなに吹きやすい楽器だったんだ！」でした。それまでの楽器はホルンの形をさせていただいたものだと実感した、と喜んでいました。彼女はコンクールではホルン奏者の講評に音色が良いと褒められて吹奏楽を続けていて良かったと大変喜んでいました。また、本校のユーフォニウムへこんでいたり錆びていたり非常に使い辛い楽器でしたが、生徒はキラキラと輝いている新しい楽器をもっただけでスーパーマンになった気分だ、とよりいっそう練習に打ち込み、初心者ながらレギュラーメンバーとしてソロを吹くなど活躍しました。また、このままユーフォニウムを吹き続けたいと言うようになりました。中音部を担当するホルンとユーフォニウムが新しくなったおかげで、サウンドが重厚になりました。

今回の支援金により、楽器が新しくなり充実したことはもちろんですが、部員たちにとって日頃の取り組みが認められたという自信や誇り、美しい音色で奏でる喜びなどを感じることができました。そして、それは今後よりよい演奏をしたいという意欲につながり、これからますます向上していく事と確信しています。また、多くの方々が支えてくださることに感謝し、地域での演奏活動も積極的に取り組んでいきたいと思っています。

この度は、このような機会をいただき本当にありがとうございました。

顧問 熊崎孝之

寺嶋 彩

大阪大学人間科学部
人間科学科1年
(恵那高校卒)

様々な視点から物事を切り取る考え方を学び、自らのバックグラウンドを養成したい。

教職の総合演習で、大阪府立高槻支援学校に行きました。そこでは、教育の根幹にあるものを間近で学ぶことができました。総合演習が始まってまず私が指示されたことは、授業の準備や掃除などではなく、「子どもたちを観察することから始めなさい」ということでした。何かお手伝いをしなくてもいいのかと不安になったのですが、この言葉は本当に大切なことだと徐々に分かるようになりました。児童一人ひとりには、それぞれ好きなことやこだわりがあって、彼らの気持ちに触れられる言葉とそうでない言葉とありました。教育の在り方を考えるときには抽象化も大切ですが、各個人を理解してこそ得られることもあるのだと強く感じました。総合演習を通して、人間としての幅も広がったように思います。とても意味のある時間を過ごすことができました。

現在は一般教養課程のため、学部間の垣根が低いことが魅力です。私は人間科学部に所属しながら医学部や工学部の講義を受講し、知的発見の喜びを感じています。文理にとらわれない様々な視点から物事を切り取る考え方を学び、自分の中の世界が広がるような感覚を味わっています。私は文系よりも理系科目に興味があったのですが、多くの分野の講義を聴くうちに、今まで全く興味を持たなかった社会学や経済学もとても面白いと思うようになりました。自分の興味範囲が広がったことは大きな収穫だと思っていますが、広く浅く学んだために全てが中途半端、ということにはならないように気をつけなければ、と思います。今は様々な学問に触れて、自分のバックグラウンドを養成する期間にしたいと考えています。

奨学会からのコメント 一般教養課程は戦前の旧制高校にあたり、帝国大学に進む前段階の学問はもとより、エリートとしてノーブレス・オブリージュの精神を学んだ。税金での人材育成の意味を問うてみよう。

薄井 貴裕

岐阜大学医学部医学科1年
(可児高校卒)

一人ひとりに合った的確な治療をするために、コミュニケーションの重要性を実感。

大学に進学するまでは1年生で大きな実習はないと思っていたのですが、前期には初期体験実習というものがあり、病院をはじめ、献血センターや消防署、高齢者施設を訪れ、医師以外の医療を支える人達や施設の役割を学びました。その初期体験実習において最も印象に残ったのは、聴覚に障害を持った子ども達が通う保育園での実習でした。聴覚障害にも度合いがあり、補聴器をつけなくてもある程度の音を聞きとることができる子もいれば、補聴器をつけなければほとんど音が聞こえない子もいます。一人一人が様々な度合いで障害を抱えているその保育園では、子どもと先生、もしくは子ども同士で、手話を使って会話をしたり、

話している相手の口の動きを見て、相手が何と言っているのかを解釈したりします。そうした様子を見た私は、聴覚に障害を持つ人のコミュニケーションに深く関心を持ちました。というのは、体に障害を抱える人々の悩みを解決するのは、自分が志す医師だからです。一人一人に合った的確な治療をするために、一人一人に適切なコミュニケーションをとることが大切であると改めて感じた実習でした。

今後も幾つもの実習がありますが、その都度今後の自分に必要なものを吸収していきたいです。

奨学会からのコメント かつて、障害を持つ児童も普通の小学校の児童と一緒に学ぶべきではと考えた。しかし、盲学校の先生の教えに、赤面の至り。障害をカバーする技術・能力は十歳までに修得し磨くことが大切。大学など健常者と同等の教育を受けることが可能になるという。

長尾 亮

京都教育大学教育学部学校教育
教員養成課程社会領域専攻1回
(関高校卒)

最先端の学校設備・授業の訪問研究、様々な分野の人に会う…今しかできない体験を大切にしたい。

前期の授業では妥協することなく、勉学に励むことが出来ました。それに伴った成績をとることは出来ましたが、満足することなくさらに高いレベルを目指して頑張りたいと思います。現在は大学での講義はもちろん、公立学校等訪問研究として実際の学校に定期的に通っています。訪問研究を通して最先端の学校設備や小中学生の授業見学をしたり、教師の立場として生活の話を聞かせていただいたりすることが出来ました。電子黒板を活用した授業や、ガラス張りの教室、教師ステーションなど、見学を通して私たちの教育観は確実に広がっています。また、これまでは学生として何となく感じてきたものでも、教師としての視点で見ることによって様々なことに気付かされます。意見交流前の先生の見回りは、授業を迅速かつ発展的な内容に出来るように、一人一人の意見を把握する意味を持っているということ。生徒との

コミュニケーションを通して、いじめに対して目を光らせているということ。先生は常に生徒のことを思っている必要があると、改めて気づかされました。実際に見て、聞いて、感じたことをこれからの私自身の学習や生活に生かしていきたいです。

机に向かった勉強はもちろんなのですが、実際に史跡を訪れたり本を読んだりすることも大切にしています。原稿用紙や明朝体が生まれた寺に行き、現役で活躍している数少ない版画家の方の話を聞いたり、京都や奈良の博物館の館長の話を聞いたりしました。教科書には載らない生の声を聞かせていただきました。教える立場になって生かしていきたいです。それが私が京都に来た理由の一つでもあるので、今しかできないことを身を持って経験していきたいと思っています。

奨学会からのコメント 世界が広がり頼もしいかぎり。が、長尾さんに限らず若年層に対する疑問。「聞かせていただきました」というような表現をどこで修得したのか。「拝聴した」「教授された」である。レポート・報告文等々は熟語や漢文脈で簡潔に書く。あえて辛口な忠告を。

馬淵 諒真

京都大学理学部1回
(大垣北高校卒)

知的好奇心を満たす恵まれた環境に感謝。理学系、人文系…幅広い科目を学ぶ。

大学一回生は、「全学共通科目」という、いわゆる一般教養的な内容の授業を中心として履修することになります。早く専門的なことを学びたいという気持ちもありますが、まずは基礎知識を身につけなければなりませんし、自分の専門でない人文系の科目を学ぶのも新たな発見も多くあり、楽しく感じながら授業をうけています。

例えば「哲学基礎論」という科目では、ソクラテスやアリストテレスといった古典的な、哲学の基礎となる人物の考えを学び、その過程で「パイドン」や「形而上学」などの、哲学を学ぶうえで不可欠な哲学書の紹介を受け、学びを深めることができました。また、「中国文字文化論」という講義は、京都大学の高名な教授陣の中でも特に有名な方の授業で、

そういった名のある教授の講義が受けられるとても贅沢な環境に今自分があるのだということを実感しました。講義の内容もやはりとても面白く、知的好奇心をくすぐられるものでした。

当然ながら理学系の科目も履修しています。数学や物理など高校のころとは比べものにならないくらい難しくなっているように感じますが、それはすなわち学んでいることがレベルアップしているためだととらえ、日々勉学に励んでいます。

一年後には専攻を決めねばなりません。さまざまな科目を学び、自分に最もあった専攻を選ぶように今は幅広く学問に取り組んでいます。

奨学会からのコメント 高名な教授なら名前を拝聴したい。昔は「今西錦司の講義に感激した」という具合に書いた。高名であればあるほど、固有名詞といえど普遍化し、文化財や人類共通の宝と化す。従って名前「先生」や「高名な方」を付けるうちは小物、と我々は理解する。



公益財団法人
伊藤青少年育成奨学会
理事 鎌田 満



『いしぶみ 広島二中一年生全滅の記録』
広島テレビ放送 編
出版社：ポプラ社

『いしぶみ

—広島二中一年生全滅の記録—

広島テレビ放送 編

この本を数年前に目にして、二度三度と読み返して人間の命のはかなさを知りました。

この人達が今生きていれば私と同じ年というところありぜひ若い人にも当時の原爆のおそろしさを知ってほしい。

広島二中 321 人 1 人残らず死にました。彼達の当日の行動とかを親や知人から聞きとりまとめた本です。

でも死亡が確認できた人は 226 人で残りは親兄弟も探してもわからず多分同じ死に方をされていると思うと書いてあります。

私も当時の様子を校長先生から聞いていましたが、同じ年代の人が将来に夢を見ずに亡くなった事は無念だったろうと思います。特にこの広島二中は優秀な学生が多く今でいう進学校だったようです。

彼らが今、生きていたらさっさと日本も変っていたかも知れません。

熱い熱いと言って川にとび込みお母さんお

母さんと呼びつけた子、中には天皇陛下下パンザイとさげんでいた子もいたそうです。

一生はそれでも一生だと思うが自分の立場とくらべて考えさせられます。

今「核」の事が政治でも語られておりますが、当時より数百倍強力でか…。

この本を読んで考え直すべきと思うが、でも平和に必要な事もある。

どうか若い人達には歴史の中での事にすまざず考えを変えてほしいと思います。

平成25年度 スポーツ・文化系部活動振興支援事業並びに地域振興事業支援金 募集中!

締切日(消印有効)

2013年5月15日

詳細につきましては、下記財団ホームページをご覧ください。事務局へお問い合わせ下さい。

スポーツ・文化系部活動振興支援事業

■事業の概要

高等学校運動部及び文化系部活動のなかで、大きな目標を持ち、日頃から積極的な活動を実施している団体や、十分な活動時間が持てないなか活発に活動している特別支援学校等に対して、支援することを目的としております。

■審査基準

- ① 支援金は部活動向上のための商品、什器・備品等の購入のための支援金であり、遠征・宿泊費等は支援できませんのでご注意ください。
- ② 活動内容が、部活動等を通じて豊かな人間性を確立するという目的に沿っているか、といった観点から審査いたします。必ずしも、よい成績を収めるためでなくてもかまいません。もちろん、独自の取り組みの結果として好成績を収めている場合は評価いたしますが、過去の成績だけで選考することはありません。

スポーツイベント

■事業の概要

当事業は、岐阜県内で開催される小・中・高生を対象としたイベントで、青少年の健全育成に寄与することを目的としております。活動内容が、スポーツを通じて、仲間とともに力を合わせて心・技・体の鍛錬を重ねる活動であるかどうか、といった観点から審査いたします。必ずしもよい成績を収めるためでなくてもかまいません。予算の許す範囲で助成いたします。

■審査基準

- 助成対象は、岐阜県内で今事業年度(4月～翌年3月)に行なわれるイベントで、営利目的ではないことを条件としております。助成申請があったイベントに対し助成をする応募型の助成で、青少年の健全育成または地域の活性化に資するかといった視点に立ち選考し、選考の結果、当法人が必要と認めた額を助成いたします。ただし、下記のもの是对象外となります。
- (1) 個人的な事業
 - (2) 毎年継続的に行なわれる恒例的な事業の複数回の助成(一回限りならば助成可能)
 - (3) 目的が明確でないもの
 - (4) その他、当財団がふさわしくないと判断したもの

地域振興事業

■事業の概要

当事業は、地域の各種団体等が取り組む様々な地域振興事業に資金の助成を行なうことで、人材の育成または地域の活性化に資することを目的としております。

■審査基準

- 助成対象は、岐阜県内で今事業年度(4月～翌年3月)に行なわれる文化・教育・国際交流等に関する事業活動で、営利目的ではないことを条件としております。助成申請があった事業活動に対し助成をする応募型の助成で、人材育成または地域の活性化に資するかといった視点に立ち選考し、選考の結果、当法人が必要と認めた額を助成いたします。ただし、下記のもの是对象外となります。
- (1) 個人的な事業
 - (2) 毎年継続的に行なわれる恒例的な事業の複数回の助成(一回限りならば助成可能)
 - (3) 目的が明確でないもの
 - (4) その他、当財団がふさわしくないと判断したもの

■選考の流れ(全事業共通)



※高等学校の部活動は学校長を介して、奨学会へ申請書を提出してください。